

編集後記

8年前、東京での56年ぶりの開催が決まり、熱狂的な盛り上りをみせていたことがまるでウソのようにオリンピック東京2020が閉幕しました。本誌がお手元に届く頃にはパラリンピックも閉幕していることと思います。それにしても、コロナ禍でなければどんな展開になっていたことでしょう。「たら」「れば」を言い出したら切りがありませんが、それでも4年に1度のスポーツの一大イベントを無事終えることができたことに、関係者はさぞ安堵したことでしょう。その代償としてコロナウイルス感染が収束していないではないかという議論もあるようですが、皆様はどのようにお考えでしょうか。

自分は前回の東京オリンピックを断片的ながらリアルに記憶している最若年世代と思われますが、今回、無観客開催になったにもかかわらず無駄に祝日が設けられたオリンピック開催期間中、TV観戦の合間に市川崑監督の手による前回の東京オリンピックのドキュメンタリー映画をプライムビデオで視聴しました。画面から伝わる高度経済成長の入り口に立った頃の日本の持つエネルギーと会場内外の国民の熱狂ぶりが、今回のクールに終了した東京2020とのコントラストを否が応でも浮かび上がらせ、何とも切ない感覚を抱かずにはいられませんでした。

さて、今月の特集は眼科における生理機能検査の復習とアップデートです。最近は何かと光干渉断層計(OCT)に注目が集まりがちで、機能検査が軽視されるとは言わないまでも以前より実施される機会が減っているような気がしますので、是非とも知識をリニューアルする機会にしていいただければと思います。

綜説では誰もが悩まされているであろう強度近視と緑内障の関係について、新田先生からわかりやすく解説していただきました。クリニックでもできることとして、強度近視の場合は視神経乳頭の写真をしっかり撮って記録に残しておくことが重要のようです。また、今回から新たな試みとして、ウェットラボでの実習に役立つ豚豚の解剖シリーズが始まりました。ウェットラボと言えばテクニカルな側面にばかり関心が向けられがちですが、ベースにある組織学的背景に思いを馳せることは大切であり、研修中の先生には是非とも目を通していただきたいシリーズになりそうです。

年に2回は順番が回ってくるこの編集後記ですが、次回までには何とか東京でも市中で普通に呑める状況になっていることを切に願っています。

(後藤 浩・記)

編集：富田剛司・後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治・飯島裕幸・坪田一男

「眼 科」 第63巻 第9号 9月号

2021年9月5日発行(毎月1回5日発行)

定価 3,080 円(本体 2,800 円+税 10%)

年間講読料金

定価 46,310 円(本体 42,100 円+税 10%)

[年間13冊(臨時増刊号を含む)の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。